

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	対象となる主な学年	第3学年
取組事例名	「学級経営の具体的な取り組み ～学級会に力を入れる！～」		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像

児童の実態	取組を通して育てたい児童像
エネルギー溢れる元気な児童が多い。友達の言動が気になり、やるべき自分のことが後回しになることがある。自信がもてず、友達に頼り過ぎる面もある。しかし、目標を共有し、見通しをもたせて活動に取り組ませると、自分たちの考えを出し合い、表現し、協働して挑戦していく児童である。	集団で取り組む楽しさ・喜び・達成感を感じられる学級集団を目指し、いろいろな活動や行事を通してクラスの絆を深める。特に、当番活動・係活動・話し合い活動の充実を図る。そうすることで、児童が生きていくうえで欠かせない、コミュニケーション力・協働性・社会性等を育てたい。



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい

- ・自分たちで話し合いを進め、決定していると感じることができるようにする。
- ・学級の一員として、当番活動・係活動をするを通して、自己有用感をもたせる。

取組の流れ・創意工夫・児童の変容等

<学級会のベースづくり>

全員に学級会の司会グループを経験させるために、司会グループの班を作った。国語科の学習と関連付けながら、司会グループの仕事と役割を教え、1学期は担任が進めながら型を伝え、少しずつ役割を児童らに任せた。2学期からは、すべての役割を児童らに任せられるようになった。

また、司会の台本をポケットファイルに入れて準備することで、司会者には読むセリフが、話し合い活動に参加している児童には流れの段階が分かり、スムーズに会を進め、参加児童も見通しをもって活動することができた。

そして、提案理由に沿って話し合い活動を進めることで、様々な意見が出されても視点を絞り、提案理由に立ち返って吟味することができた。

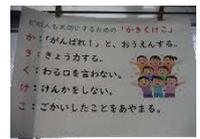
<当番活動・係活動について話し合う>

2学期初めの話し合い活動で取り上げた。児童は1学期の自分の仕事の様子や学級の様子を振り返りながら、話し合いを進めた。2学期の係活動については、「友達を楽しませる探究活動」を条件に、「〇〇クラブ」を作ることに話し合った。すると、1学期の様子から「これは困るのでやめてほしい」と素直な気持ちを伝える意見が出た際には、「友達を笑顔にする活動とは？」について考えることができていた。

クラブ（係）活動については、11月に見直しの話し合いを設けた。「継続か、新たにクラブ活動を始めるのか」について2か月間を振り返って話し合うことで、クラブ活動への意欲を高めることができた。

<中だるみの時期に・・・「スマイルルールづくり」>

学校行事後に少し崩れかけてきたところで、道徳の題材を活用し、学級の課題に目を向けさせると、どうすればよいか各々がアイデアを出し合い始めた。学級会という場を設定しなくても、道徳の学習時間や朝の会で意見を出すようになった。また、道徳の学習を通して「なぜルールが必要か」について考えさせると、自然と学級の中の「〇〇ルール」を出し始め、みんなが笑顔で過ごせる学級にするための「スマイル😊ルール」としてまとめ、掲示することになった。こうして自分たちで学級を作っていこうという思いが生まれてきた。



◆ 成果 (○) と課題及び今後に向けて (●)

○話し合い活動ができる学級に育てることで、児童が安心して意見を伝えられるようになった。また、挑戦してみようという雰囲気が醸成された。

【児童アンケート「学校が楽しい」1学期 85.7%、2学期 89.9%】

●適宜、話し合いを設けられる時間を生み出すこと。全学級で取り組めるよう研修し、PDCAサイクルに基づいて検証していくこと。